

緑とともに

Toyota・Kamo
NPO法人 豊田・加茂
菜の花プロジェクト

2018年 9月発行

機関紙 第89号

はじめに

実り多き秋がきます

今年も順調に菜種の搾油作業が進み、新油が出来ました。菜種自体は例年と比べ、やや少くなめようです。ですが、販売には、影響がないほどの量を収穫できましたので是非皆様ご賞味下さい。9月の豊田スタジアムで行われます産業フェスタにて、お披露目致します。また、待ちきれないという方は下記事務局にて随時販売を行っておりますので、お問い合わせの上、ご利用下さい。お待ちしております。



昨年の産業フェスタの様子です

特集

“豊田・加茂のなのはな油”について

皆さんは菜の花の種（菜種）を実際に手にとってご覧になったことがありますか？実際に見てみると、何とも小さな粒なのです。その粒から私達が普段口にしている“豊田・加茂のなのはな油”は作られています。いったい、油となる為にはどれくらいの菜種の量が必要となるのでしょうか。



菜種の品種

“豊田・加茂のなのはな油”で使用される品種は決まっています。菜の花には地域や土地に適した品種が存在します。更に、観賞用や食用または搾油用に適した品種など様々なのです。こちらでは、搾油用品種の、「なしきぶ」と呼ばれる品種を作付けしています。この品種は食用油にした際、無エルシン酸の菜種となります。種は毎年、新しい種を購入し、菜の花を育てているのです。それでも、土に以前交雑した種が落ち、残っていると育つ速度が異なり太陽の光を独り占めしようとします。故にそれらを見つけると一つ一つ丁寧に手作業で取り除く作業も行っています。それら万全の体制をとっても、天候や、タイミング、土地の具合などにより、実りが不良となる場合もあるのです。植物を育てるのは難しいですね。

“豊田・加茂のなのはな油”の菜種が育てられている土地とは・・・

沢山の実りある作物が育つ場所は必ず縁の下の力持ちとして、土地が必要です。その土地のほとんどが地主様が先祖代々大切にされていた土地で何らかの事情により耕作困難となりこちらで管理させていただくこととなったご縁ある土地になります。やはり一概に土地といっても、菜の花の栽培に適さない土地や、十分な作業を行うための重機が入ることさえままならない土地など様々な場所があります。一つとして状況が同じ土地はありません。それらを工夫し、最近ではようやく安定して作付けできるようになりました。

こちらで、約60haの土地を管理させて頂いています。

1ha(約3000坪)で1tの菜種の収穫が見込まれます。毎年作付け面積は20haなので20t収穫と気持ちよく言いたいところですが、前項で述べた通り、全て上手くいくわけではなく、今年は13t(その年により、変動します)の収穫でした。



沢山の作業の工程を経て“豊田・加茂のなのはな油”になるのです。

約60ha 一般管理(管理している土地)

| | | |
|-------------|------|--------------------------------------|
| 60ha の内訳 | 20ha | 油用菜種を作付け |
| | 15ha | 食用・観賞用の菜の花・ほうれん草の作付け面積 |
| | その他 | ひまわりや牧草など緑肥を作付けしています (連作障害を避けるため) |

プロジェクトの狙いとは・・・

沢山の作物が、何でも採れる土地は、理想的で夢のようです。ですが、やはりそのような理想郷は存在しません。その理想に近づけるため、日夜、土地の整備を行っています。土地を耕作することをやめると、たちまち土地は荒れ果て耕作放棄地と化してしまいます。そうなるとなかなか、元の状態に戻すことが出来ません。そうならない為にも地主様との連絡を密にしていかなければならないと考えています。土壌の改良を行い環境を良くし、将来地主様が農業を再開した時にいつでも返却できるよう管理しています。当プロジェクトは循環型社会の構築をこれからも目指していく上で農産物や商品を安定して創出することでその農地での雇用を創出していきたくと思っています。これからも環境に良い取り組みを行っていきたくと思っています。

各コーナー・イベント情報の お問い合わせ先

Toyota Kamo
NPO法人 豊田・加茂
菜の花プロジェクト

事務局 梅谷

〒471-0051 豊田市花丘町1丁目17番地
TEL 0565-41-4837 FAX 0565-34-3566
URL <http://www.hanaoka.biz/>